

**地デジ移行に関する石原社長記者会見概要**

7月27日午後6時から、アナログ終了、地デジ移行に関する石原社長による記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

大きな混乱もなく、無事デジタル放送に移行でき、ほっとしている。アナログ終了にあたり1955年の(TBS)テレビ放送開始から長きにわたって、TBSのアナログ放送をご覧くださった視聴者の皆様に感謝の気持ちをお伝えしたい。

地デジへの移行は、受信機を買い換えたり、アンテナを設置したり、CATVに加入したりといった視聴者の皆様のご協力なくしては成し遂げられなかったものであり、改めて視聴者の皆様に感謝申し上げたい。

私ども放送事業者にとって地上テレビ放送のデジタル化は、2001年の電波法の改正から10年という短い期間に、50年かけて築いたアナログ放送のネットワークをデジタルに置き換えるという難事業だったが、何とかここまで漕ぎ着けられて感慨深いものがある。

7月24日当日、TBSでは、「アナログ放送終了対策本部」を設け、技術セクションや地デジ担当者が、視聴者の皆様からの問い合わせに対応した。正午にお知らせ画面に切り替わってから、問い合わせが増加し、24日の24時までには408件の電話が寄せられた。

電話の内容は、「デジタル対応テレビを買ったのに映らない」といったテレビの設定や操作方法などの受信相談が大半だった。ご高齢の方からの問合せも多く、分かりやすく丁寧に対応した。

TBSでは、数年前からデジタル放送の特性を活かして、様々なチャレンジをしてきている。例えば『朝ズバッ!』では、自宅の周辺地域の天気情報を自動的に表示するなど、データ放送の利便性を視聴者に還元できるような取り組みを進めている。

この他にも『オールスター感謝祭』では視聴者のクイズ参加、「世界陸上」や「世界バレー」などでは連動データで、競技の詳細を伝えたりしている。デジタルを駆使した視聴者サービスには、今後益々力を入れていきたい。

以上